

# 2020.8.2 ONLINE PANEL DISCUSSION ウィズコロナ時代の『ダイバーシティ』を考える

～ 地方都市伊賀市ゆかりのパネリストと共に ～

- 【開催日時】 2020年8月2日（日） 11時-13時
- 【開催方法】 Web会議ツール「Zoom」を利用したオンライン開催
- 【定員】 100名(質疑応答参加可能) \*YouTubeライブストリーミングも同時公開（質疑応答不可）
- 【参加費】 無料 ■【対象】 ダイバーシティに興味ある方 ■ 申込先 - <https://tayousei.peatix.com>

パネリスト - 伊賀、東京、大阪、米国、ベトナムを繋いでディスカッションします



米国テキサス州  
から参加

上嶋毅さん  
シニアバイスプレジデント  
富士通ネットワークコミュニケーションズ社  
米国テキサス州在住。  
伊賀市出身。上野高校卒業。  
米・英在住歴21年。欧米のビジネス・プライ  
ベートの生活経験と、伊賀の18年の経験を重  
ね合わせてダイバーシティを考える。



伊賀市  
から  
参加

加納克典さん・嶋田全宏さん  
2016年、伊賀市の古民家を購入し、大阪府から移  
住。農業を営む。同市が全国3番目の自治体として導  
入した「パートナーシップ宣誓制度」により、互いを人生  
のパートナーと宣誓。地元伝統工芸品「伊賀くみひも」  
の製造者と協力して「虹紐（にじひも）」を企画。同性  
カップルに理解を求める講演活動やYouTubeチャンネル  
「僕らの移住生活」など積極的な発信を行なう。



大阪府  
堺市  
から参加

オチャンテ・村井・ロサ・メルセデスさん  
桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科  
准教授 15歳の時に来日。中学校3年生に編  
入、定時制高校卒業。三重大学大学院を修了。  
三重県で外国人児童生徒巡回相談員、奈良学  
園大学人間教育学部講師を経て、現在桃山学  
院教育大学でニューカマーの子どもたちの教育研  
究を行っている。多文化共生や国際理解に関わる  
活動にも参加、NGO「大阪ラテンアメリカの会」  
副会長として南米支援の翻訳・通訳等を行う。



ベトナム・ホーチミン  
から参加

古川直正さん  
(株)ブレイングループ アジア担当・執行役員  
ベトナム・ホーチミン在住、伊賀市出身・上野高校卒業。  
(株)東北新社を経て、グローバルコミュニケーション・サポ  
ートカンパニー、(株)ブレインへ転職。イタリア年、ブラジル  
年などの事業や日本と海外を繋ぐ人物のドキュメンタ  
リー番組などを多数手がける。現在は、同グループ現地  
法人代表としてベトナム在住。日本とアセアンを繋ぐ交流  
事業に取り組む映像・イベントプロデューサー。  
三重県・伊賀市の観光振興にも意欲的に取り組む。

伊賀市から参加

柘植将さん  
伊賀市地域づくり推進  
課係長 伊賀市出身。  
上野高校卒業。  
伊賀市合併、自治基本  
条例策定などに携わる。



LGBTへの理解を深める施策を推進し、全  
国3番目となる「パートナーシップ宣誓制度」  
へと繋げた。移住交流部門では5年連続で  
県内最多の移住者数を実現。20年以上、  
自律した地域コミュニティの実現に携わる。

【司会】

(東京・三重テラス) 宮田隆  
上野高校同窓生有志の会。首都圏を中心  
に伊賀のPR活動を行う。

(伊賀市) 森中秀哲 伊賀市在住。上野  
高校卒業。伊賀市移住コンシェルジュ。

## 【このイベントについて】

- 米国ではジョージ・フロイド氏の警官による殺害を契機に人種差別問題が際立って表面化し、人種間の分断が抜き差しならない状況に陥りつつあるように見えます。  
欧州でも各国でポピュリズムが跋扈し、反移民や反イスラムを掲げた極右の台頭が顕在化しつつあります。  
米国・トランプ大統領の言動やイギリスのEU離脱に象徴されるように、世界は統一／融合から分断／分裂へと舵をきってしまったように見えます。  
ヒトをヒトたらしめていたものは、交流し、理解し合い、励まし合い、協力して社会を作り上げる力だったはずですが、しかし、それさえもコロナウイルスのために、窮屈な制約の中に押し込められそうになっています。
- このイベントでは三重県伊賀市という1地方都市のレンズを通じて、伊賀市にゆかりのある国内外に住まう6人のユニークなパネリストの多様な経験と視点をお聞きしながら、上述の課題について考える機会を持ちます。  
同市は外国籍市民が人口の6%を超えるマルチカルチャーのまち。国内他自治体に先んじて導入された「パートナーシップ制度」を持つ、性の多様性を認め合うまち。年間100人に迫る移住者を受け容れる、開かれたまち。  
そんな伊賀市のダイバーシティへの大きな可能性は、この分断の時代にどのような意味を持つのでしょうか？
- 私たちは「秘蔵のくに伊賀のキュレーション」イベントとして昨年から今年2月にかけて東京日本橋三重テラスを中心に5回のイベントを行って参りました。今回はウイズコロナ時代を見据え、上記の問題意識に基づき、「ダイバーシティ」について考えるイベントをオンラインで開催することにいたしました。より多くの且つ多様な皆様のご参加をお待ちしています。

主催者 三重県立上野高校同窓生有志の会